

4. じょっぱり起業家育成検討委員会委員議事録

4-1. 第1回 じょっぱり起業家育成検討委員会

日 時：平成27年11月 2日（月） 17：00～18：00

場 所：ホテルナクアシティ弘前 3階 ガーネット・トパーズ

1. 開会

事務局（弘前大学 森）より開会する旨発言があり、伊藤成治（弘前大学理事）から開会にあたっての挨拶が行われた。

2. 出席者紹介

事務局（弘前大学 森）より出席されている委員の簡単な紹介が行われた。

3. 産学連携サービス経営人材育成事業について

事務局（弘前大学 森）より、配布資料に基づき、「産学連携サービス経営人材育成事業」と本学の取組についての説明が行われた。

4. 議事

議事に先立ち、事務局（弘前大学 森）より本委員会の委員長が決まるまで、引き続き進行する旨の発言があり、審議が行われた。

（1）じょっぱり起業家育成検討委員会設置要綱（案）について

司会者（弘前大学 森）より、配布資料に基づき、「じょっぱり起業家育成検討委員会設置要綱（案）」の説明が行われ、審議の結果、案のとおり承認された。

（2）じょっぱり起業家育成検討委員会委員長について

司会者（弘前大学 森）より先にご承認いただいた「じょっぱり起業家育成検討委員会要綱」に基づき、委員長を伊藤成治弘前大学理事にお願いしたい旨発言があり、伊藤委員が委員長として委員会を進行した。

伊藤委員長より、要綱に従い、委員長に事故があった場合の職務代理者を大浦雅勝委員へお願いしたい旨、発言があり了承された。

（3）意見交換

伊藤委員長より、先ほど事務局（森）からも紹介がされたが、ご出席の委員の方々から事業についての期待感等について一言ずつ頂戴したい旨発言があり、各委員から

発言があった。

伊藤委員長より、次回の委員会までにはプログラムの原案をご検討頂きたいので、よろしくお願ひしたい旨発言があった。

4-2. 第2回 じょっぱり起業家育成検討委員会

日 時：平成27年12月18日（金） 13：00～14：05

場 所：弘前大学総合教育棟2階 大会議室

1. 開会

事務局（弘前大学 森）より開会する旨発言があり、伊藤成治（弘前大学理事）から開会にあたっての挨拶が行われた。

2. 出席者紹介

事務局（弘前大学 森）より、今回初めて出席される委員の簡単な紹介が行われた。また、人事異動により株式会社楽天野球団の江副委員が白坂智志市に交代した旨の報告があった。

3. 議事

(1) 産学連携サービス人材育成事業の中間報告会（経済産業省）について

事務局から資料に基づき説明がなされた後、「じょっぱり起業家」のイメージについて意見交換がなされた。

委員からは、以下のような考えが示された。

- ・「あきらめない」「簡単にはすてない」ということ。「なにくそ」でなくても良いので、「諦めず」に頑張ってもらいたい。
- ・良くも悪くも津軽人を象徴する言葉で良い意味では「負けず嫌いで、簡単には投げ出さない」悪い意味では「自分に非があるにもかかわらず、それを認めない」これが混在する言葉なのかなと思っている。もちろん、私たちは良い意味で使っていますし、悪い意味で使う際にも、愛情を込めて使っている。
- ・「じょっぱり」＝「諦めない」と出てきたが、換言すると「信念」だと思う。「職人気質・頑固」とありますが、そこには確固たる「信念と覚悟」が裏にあるとイメージしている。
- ・学生との話の中で、人生の選択に起業というものは言葉としてはあってもリアルに自分事だとは思っていない。就職に注力していると感じをうける。じょっぱりに関して言うと「郷土愛」みたいなものがあると思う。
- ・「頑固・曲げない」というのはあると思うが、その奥に潜んでいるものは絶対的な「郷

土への誇り」でそれが強くあるから強いもの（意識）を保てると思っている。「じょっぱり精神＝強い郷土への誇り」だから発信していける人材を「じょっぱり起業家」とイメージしている。だから県外に出る人であっても、「じょっぱり精神」を養うと培った精神を活かす事もできるであろうと考えている。

（２） 履修証明プログラムについて

事務局から資料について説明がなされた後、意見交換が行われた。

委員からは、次のような意見が出された。

- ・事業でめざしている具体的な業種について確認があり，IT をからめた 6 次産業化，観光産業に絞ってカリキュラムの開発を進めるとの確認がなされた。
- ・対象についての確認があり，当面は学部学生に焦点を絞って開発し，その後社会人を対象としたプログラムを開発するとの説明がなされた。
- ・IT6 次産業化というのもサービスだが，結局青森県の農林水産業のことだとすれば，流通業も入れた方が県全体としては考えやすいのでは。
- ・いくら机上で話をしても、ワークショップで話を聞いても、実際にやるに勝る者はない。制度的に困難かもしれないが、実際に会社を興してやってみるのが究極だと考えている。できないとしてもシミュレーションして、机上の学習を実践できる連携起業や「失敗のどきどき」に近い感覚を味わえるような実習ができるとよいのではないか。
- ・プログラム修了にあたって何が出来たのか、何が身についたのかというものを何かで計れないといけないと思う。何をもって計るのかというものをしっかりしてないといけないと思うので、検討してほしい。

（３） 次年度授業の試行計画案について（実習、インターンシップ等）

事務局から資料に基づき説明がなされた。事務局からは、次年度、「失敗の経験」を踏まえての future skills project(=FSP)の取組を導入すること、インターンシップについては、海外のインターンシップ（台湾）を考えており、青森県の観光ガイドブックの作成を学生が企画し、生産（本の出版）を行うというプログラムを考えている、ことなどが紹介された。終了時間となったことから、意見等があれば事務局に連絡することとなった。

4-3. 第 3 回 じょっぱり起業家育成検討委員会

日 時：平成 28 年 2 月 8 日（月） 13：00～14：30

場 所：ホテルナクアシティ弘前 3 階 ガーネット・トパーズ

1. 開会

事務局（弘前大学 森）より開会する旨発言があり、伊藤成治（弘前大学理事）から開会にあたっての挨拶が行われた。

2. 議事

- （1） 本年度の取組について
- （2） 履修証明プログラムについて
- （3） 次年度事業計画（申請）について
- （4） その他

※議事録の詳細については、次年度の報告書に掲載予定である。

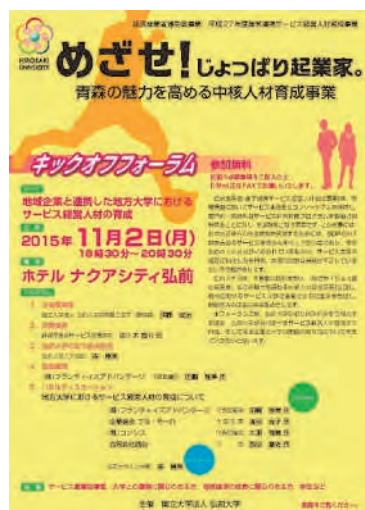
5. 参考資料（経済産業省提出書類）

中間報告会資料

大学名等	弘前大学
記入日	平成 27 年 11 月 17 日
～11 月の取組状況 （会議や出張等の写真も 適宜入れてください。ま た、項目は適宜追加 or 削 除してください。）	■第 1 回じょっぱり起業家育成検討委員会 日時：平成 27 年 11 月 2 日(月)17 時～18 時 場所：ホテルナクアシティ弘前 出席者：14 名（委員 16 名中） 会議概要： 本事業の説明を行い、じょっぱり起業家のイメージを共有した。 また各委員から本事業に対する期待や意気込みなどが述べられた。  委員会の様子 ■キックオフフォーラム 日時：平成 27 年 11 月 2 日(月)18 時 30 分～20 時 30 分 場所：ホテルナクアシティ弘前 出席者：114 名（企業・一般 28、大学関係者 11、学生 75） テーマ： 「地域企業と連携した地方大学におけるサービス経営人材の育成」 1. 主催者挨拶 弘前大学教育担当理事・副学長 伊藤 成治 2. 来賓挨拶 経済産業省サービス政策課長 佐々木 啓介 氏 3. 弘前大学の取り組み説明 弘前大学人文学部 森 樹男 4. 基調講演 (株)フランチャイズアドバンテージ 代表取締役 田嶋雅美 氏 5. パネルディスカッション テーマ：地方大学におけるサービス経営人材の育成について パネリスト：(株)フランチャイズアドバンテージ 田嶋雅美 氏 企業組合 でる・そーれ 代表理事 澁谷 尚子 氏 (株)コンシス 代表取締役 大浦 雅勝 氏 合同会社西谷 代表 西谷 雷佐 氏 コーディネータ：弘前大学人文学部 森 樹男

基調講演者の田島氏から①津軽地域のサービス産業が遅れており、改善の余地が多く残されていること、②この事業を弘前大学人文学部が行うことにより、文化や歴史的な要素を取り込むことができ、魅力的なプログラムができる可能性があること、③学生を受け入れることは、企業にとってもプラスの面が多いこと、などの話があった。

その後のパネルディスカッションでは、パネリストから活動内容についての発表に加え、①青森におけるサービス経営人材に必要なこと、②学生と一緒に活動したなかでよかったことや課題、などについて発言をもらい、青森におけるサービス経営人材育成の方向性についてディスカッションを行った。



(左) フォーラムチラシ、(右) 陸奥新報 2015 年 11 月 5 日付朝刊



(左)基調講演の様子、(右)パネルディスカッションの様子

■先進事例調査

(1) 和歌山大学観光学部

日時：平成 27 年 8 月 27 日

	応対者：観光学部教授 出口竜也氏、教授 佐々木壮太郎氏 概要： 観光系の授業を行う場合のカリキュラムや実習のあり方について情報収集。この調査を通じ①地域と連携したインターンシップの運営方法、②地域との連携の方法、③観光系コースのカリキュラムや必要な授業科目、について学ぶことができた。 (2) 千葉商科大学サービス創造学部 日時：平成 27 年 10 月 20 日 応対者：サービス創造学部学部長 吉田優治氏、准教授 今井重男氏、学務担当職員 石川浩人氏 概要： サービス創造学部の教育や、「インキャンパス・リアルビジネスラーニング」事業についての説明を受けた後、意見交換。この中で①キャンパスを有効に使ったサービス人材育成プログラムの構築方法、②いかに企業を巻き込み、産学で Win-Win のプログラムを構築するのか、③リアルビジネスプログラムの構築方法と学生の巻き込み方等の情報を得ることができ、本学におけるサービス人材育成プログラム構築に参考となる情報を得ることができた。 ■じよっぱり起業家育成プログラム構築のための試行プログラム実施～ビジネスシミュレーション実習（2 年）の開始 平成 27 年度後期授業としてビジネスシミュレーション実習を 10 月に開講し、じよっぱり起業家育成プログラム構築のための試行を開始。 <実習の連携企業と課題> ① 南部屋海扇閣(青森市)：冬の観光プランの構築 ② 道の駅なみおか(青森市)：来客数 1 割アップ達成のための施策 ③ でる・そーれ（五所川原市）：赤〜いりんごジャムの宣伝・販売にむけた製品コンセプトの開発 実習では、それぞれの企業を舞台に課題解決型学習を行う。これによりサービス人材育成のために有効な実習方法を探るとともに、サービス人材として必要な能力について実践的に探る予定である。そのため、実習開始時点で PROG テスト(社会人基礎力に相当する能力測定テスト)を実施。これにより、実習開始時点での弘前大学生の能力を把握し、じよっぱり起業家の育成にあたり高めるべき能
--	---

	力を検証する予定である。また、実習を通し、どのような能力を高めることができたのか、今後検証する予定。  写真：連携企業（海扇閣）見学の様子
直近の予定 (来月の会議等)	■第2回じょっぱり起業家育成検討委員会開催 日時：平成27年12月18日、場所：弘前大学 ■第3回じょっぱり起業家育成検討委員会開催 日時：平成28年2月8日、場所：ホテルナクアシティ弘前 ■ビジネスシミュレーション実習成果報告会 日時：平成28年2月8日、場所：ホテルナクアシティ弘前
気づき事項 (成果として見えてきたこと、課題として取り組む必要があること等)	<成果> ① 効果的・魅力的なプログラム構築のための具体的なイメージ →津軽の風土が培った DNA「なにくそ精神」を持ち、サービス分野で起業し、地域を盛り上げていく人材を育成する。そのために、プログラムには失敗体験も盛り込んだものとする。 ② じょっぱり起業家を育成するためのインターンシップ・プログラムの方向性 →リアルに起業するプログラム開発、現実のプロジェクトへの参画を通して模擬的な起業体験プログラム開発 <課題> ① 事業の対象業界を絞り込むことの必要性 →青森県の目指す方向性と特任教員の強みを活かし、観光産業と6次産業に絞り込んで行く予定 ② プログラムを効果的、持続的に実施するために、構築したプログラムのシステム化を図ることの必要性 →実習の実施方法、運営に関するマニュアルの整備を検討する。
所感	○事業期間が今年度は短いことから、今後活動のペースを速めて少しでも成果を出せるようにしていきたいと考えている。

弘前大学（人文学部）H28年度より（人文社会科学部）		概要・総論
めざせ！じょっぱり起業家。青森の魅力を高める中核人材育成事業 ▶ 青森の魅力を国内外に発信し成功している若手起業家を「学生が目標とすべき人材＝じょっぱり起業家」と定義し、青森県の潜在的な魅力である観光産業や食産業をサービス分野で支えるじょっぱり起業家人材の育成を目的とする。		
Ⅰ. 今年度の取組状況 ○「弘前市まち・ひと・しごと創生総合戦略」（平成27年9月）によれば「市内大学生の県内就職率」は36.7%（H26）であり県外就職者が半数以上となっている。一方で、弘前市への「新規企業誘致、新增設件数」は0件（H26）と雇用の受け皿が弱い状況にある。この対策の1つとして起業に関心が高まっているが弘前市の「起業・創業者数」は23件（H26）に留まっている。 ○この状況を打破するために、青森県の潜在的な魅力である「観光産業」と「食産業」をサービス分野で支えるじょっぱり起業家の育成が重要となっているが、このような人材育成を行う高等教育機関が青森県にはない。 ○本事業は「観光産業」と「食産業」において体系的な教育プログラムを構築し、大学として、地域で活躍するじょっぱり起業家を育成することを目的に実施している。 ○本年度は、特に観光産業にかかるカリキュラム開発を進めていった。具体的には、基礎科目として「ベンチャービジネス論」、観光基礎概論」、応用科目として「青森の観光と地域振興」、実践科目として「ビジネスシミュレーション実習」を開講に取り組みだ。		
Ⅱ. 今年度の成果 ○「ベンチャービジネス論」受講生において、起業家を目標とする学生数の割合が約5.4%増加した（開講時43/219人→終了時48人/187人）。 ○青森観光概論の授業で観光関連の基礎知識不足が明らかになったことから「観光基礎概論」を開講することとした。 ○実践科目の試行により、サービス企業の経営に関する基礎知識の不足が明らかになったことから「サービス経営論」を開講することとした。		
Ⅲ. PR点 ○じょっぱり起業家育成検討委員会（産業界）においてじょっぱり起業家は、「郷土愛を持ち諦めない」人材であることが確認され、「失敗」や「挫折」も経験できるプログラムの構築を進めている。 ○青森県が重視する「アグリ分野」「ツーリズム」「地域産業振興」とベクトルを合わせ、弘前大学研究・イノベーション推進機構や弘前大学食料科学研究所と連携し、そのような活動をサービス分野で支えるじょっぱり起業家の育成を行うプログラムの構築を進めている。		

弘前大学（人文学部）H28年度より（人文社会科学部）		詳細									
①実施の状況 ①-1. 全体の中の進捗状況 <table border="1"> <thead> <tr> <th>平成27年度計画(学部プログラム)</th> <th>平成28年度計画(学部プログラム)</th> <th>平成29年度計画(社会人向けプログラム)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> ①平成28年度向けサービス起業家育成プログラムの開発(観光産業系プログラム) ②実践系プログラムの試行 ③海外インターンシッププログラム調査 </td> <td> ①平成29年度向けサービス起業家育成プログラムの開発(食産業系プログラム、社会人向け教材開発) ②食産業系実践プログラムの開発 ③観光産業にかかる国内外でのインターンシッププログラム開発 </td> <td> ①履修証明プログラム用コンテンツ開発および実施体制の確立 ②開発したプログラムの実施・検証・改善および自走のための体制確立 </td> </tr> <tr> <td>概ね4割完了</td> <td>4割</td> <td>2割</td> </tr> </tbody> </table>			平成27年度計画(学部プログラム)	平成28年度計画(学部プログラム)	平成29年度計画(社会人向けプログラム)	①平成28年度向けサービス起業家育成プログラムの開発(観光産業系プログラム) ②実践系プログラムの試行 ③海外インターンシッププログラム調査	①平成29年度向けサービス起業家育成プログラムの開発(食産業系プログラム、社会人向け教材開発) ②食産業系実践プログラムの開発 ③観光産業にかかる国内外でのインターンシッププログラム開発	①履修証明プログラム用コンテンツ開発および実施体制の確立 ②開発したプログラムの実施・検証・改善および自走のための体制確立	概ね4割完了	4割	2割
平成27年度計画(学部プログラム)	平成28年度計画(学部プログラム)	平成29年度計画(社会人向けプログラム)									
①平成28年度向けサービス起業家育成プログラムの開発(観光産業系プログラム) ②実践系プログラムの試行 ③海外インターンシッププログラム調査	①平成29年度向けサービス起業家育成プログラムの開発(食産業系プログラム、社会人向け教材開発) ②食産業系実践プログラムの開発 ③観光産業にかかる国内外でのインターンシッププログラム開発	①履修証明プログラム用コンテンツ開発および実施体制の確立 ②開発したプログラムの実施・検証・改善および自走のための体制確立									
概ね4割完了	4割	2割									
①-2. カリキュラム開発を加速させる取組とその結果 ○地域企業の経営者（＝じょっぱり起業家）を講師とした授業を実施することにより、実社会が求める人材像の明確化、それらに対応出来る学生の教育を効率的かつ効果的に施すことが出来た。その結果、起業を目指す学生の割合が講義当初から5.4%増加し、全体の約25%の学生が起業に興味を持つようになった。 ○特任教員（じょっぱり起業家）が実習指導に加わることで、地域企業への企画提案プロセスに実務的な指導が行われ、学生らしい企画（＝突飛な企画）ではなく、より現実的な企画提案を学生が考えることが出来るようになった。その結果、学生の企画を即座に企業が採用し、実行したケースもみられた。 ○一方で、「青森観光概論」（JR東日本寄附講義）やビジネスシミュレーション実習の試行により、学生のサービス企業経営や観光に関する基礎知識、地域に対する理解、等が低いことが明らかとなったことから、実務家教員を中心にカリキュラムの検討が行われ、平成28年度に「観光基礎概論」（特任教員担当）、「サービス経営論」など基礎科目の新設が決まった。 ○じょっぱり起業家育成検討委員会において、起業家人材育成のために、学生が考えた事業計画に対し、地域の金融機関（じょっぱり起業家育成検討委員会メンバー企業）が融資を前提に事業評価を行う授業を実施し、起業に必要な能力を身につけさせるという授業の提案がなされ、次年度の実施に向け検討をすすめることとなった。 ○キックオフフォーラムにおいて弘前大学人文学部は、経済学部と比較して、歴史や文化など多様な視点を取り入れることができるといふ強みがあることが指摘され、学生に提示する履修モデルにおいて地域志向科目の受講を強く促すこととなった。											

ビジネスシミュレーション実習（新学部では「ビジネス戦略実習」）の実施内容と成果

- 地域企業3社と連携した課題解決型学習を実施し、サービス産業におけるいばり起業家の育成を目的に実施。
- 学生グループは、カンパニーと呼び、企画会社の経営を行うという想定で実施した。この中では、地域企業はクライアントとなり学生起業に企画の依頼（＝課題）を行い、ポスター等のデザインが必要な場合は、デザイン会社（＝教育学部デザイン研究室）に発注するという形を取り、単なる実習ではなく、擬似的な企業経営を行うことを意識させながら、実施した。
- 各カンパニーが取り組んだ課題
 - 道の駅なみおが「アップルヒル」：10%集客を増やす方策を考える
 - （株）南部屋海扇閣：冬の観光客を増やす方策を考える
 - コミュニティカフェでそーれ：地域特産品の販売コンセプトを考える
- 本年度実績：13カンパニー設立（受講生64名）
- 学生の成果として、各カンパニーからそれぞれの企画が出された（写真は、企画の一部）
- カリキュラム開発の面からは、「地域の現状を分析する力」や、「顧客にとっての付加価値（本質）は何かを考える」ことが弱かったことが明らかになったため、分析力や、物事の本質を考える指導を強化することとなった。その一環として、一般社団法人Future Skills Project 研究会の授業導入することとした。



2

②開発体制・ニーズの反映

②-1. 産業界ニーズの分析結果及びカリキュラム開発に当たっての産業界の参画状況

- 産業界から得られた主なニーズ
 - －授業に対するニーズ：「失敗の経験も味わえるような授業」「履修科目を並べるのではなく何が身についたかを示すことが大事」「流通業も視野に入れて考えて欲しい」「青森県の魅力である1次産業を視野に入れたプログラムを考えて欲しい」など
- 【反映方法】
 - ①一般社団法人Future Skills Project 研究会の授業を導入し、失敗の経験も味わえる授業を実施する（次ページ参照）。
 - ②食産業に関わる科目を開発する。（平成28年度に「フードビジネス論」と「6次産業化論」を開発予定）
 - ③履修モデルの中に、学生に地域のことを学ぶ授業（弘前大学では地域志向科目と呼ぶ）を組み込み、受講を強く推奨する。
- コンソーシアム参画企業等の主な役割・貢献
 - －合同会社西谷、株式会社コンシス：事業計画の立て方、企画立案に対する助言、プレゼン方法、など実践的指導
 - －企業組合でそーれ：実習において学生を受け入れ、学生を直接指導。授業ではなくビジネスの観点から実践的に指導。
 - －Yプロジェクト株式会社、弘前観光コンベンション協会：「青森観光概論」講師、グループワーク指導、SPA アーコーディネーターなど
 - －株式会社楽天野球団：サービスマネジメントの実務を経験し、地域の魅力伝達能力を高めるインターンシッププログラムの実施。

②-2. 学生や社会人のニーズ

- 地元で就職をしたいという学生が多いものの市内大学生の県内就職率は36.7%（H26）に留まっている。一方で「新規企業誘致、新增設件数」は0件（H26）と雇用の受け皿が弱い状況である。こうした状況を改善するためには、地域での仕事づくり、雇用の創出を目指す起業家育成プログラムが必要である。
- 「観光ビジネススクールはやて」（H16～H22）という公開講座を開講した際、社会人を中心に毎年30名ほどの受講生が集まったことから、観光について専門的に学びたいという社会人のニーズがある。このため、来年度「観光基礎概論」を開講し、社会人にも開放する授業を作った。平成29年度には基礎、応用、実習を含めた履修証明プログラムに発展させる予定である。
- 時間にとらわれることなく受講したいという社会人のニーズがあることから、講義を撮影、編集した教材づくりを行い、e-learning等の方法を活用し、社会人がいつでも自由に学べる体制づくりを進める。

3

弘前大学（人文学部）H28年度より（人文社会科学部）			詳細
一般社団法人Future Skills Project 研究会のカリキュラム			
【前半】 最初から最後まで、 最終回のルールの下で、 まず体験する。	企業者材	内容	（前期コメント）受講生はつい最近まで高校生だったので、この講座でどんなことを「教えてもらえるのか」という点への期待感や不安、疑問が見られました。そこで、「この授業は、何かを与えてもらう場ではなく、自分で何かを得る場である。この機会を生きかすかどうかは自分の取り組み次第だと強く伝えました。」 （企業担当者コメント）企業では、一人のスタートレジャーが全てを解決するのではなく、複数の部門の人がディスカッションの中で、解決法を見つけていきます。今回、1年生の段階で実社会の一員になったような体験をすることは非常に意味があると思います。 （学生コメント）意欲の高いメンバーが集まっていたので、意見がぶつかりました。自分のやりたいことが明確だからこそ、ぶつかるのだと思いました。 （学生コメント）良くない方向に向かっていくときに、中間発表で軌道修正が出来ました。 （学生コメント）最終発表の日では、「まだ時間がある」と思っていた。途中で忘れかけていた。中間発表があるから、案外に進めやすかった。振り返り、中間発表ではなにか所見しましたが、問題点を厳しく指摘され、落ち込みました。最終プレゼンテーションまでにやり直しましたが、そこでもまた厳しく指摘を受けました。 （企業担当者コメント）最初の思ひ付きは大切ですが、それが本当に実現するかは、その後の努力と意思込みの精度によります。そこで、中間発表で相当厳しく指摘をしました。すると、最終プレゼンテーションに向けて、皆で必死に考え抜いたのです。想像以上の学生の覚悟に驚かされました。
	企業者材	内容	
	企業者材	内容	
	企業者材	内容	
	企業者材	内容	
	企業者材	内容	
	企業者材	内容	
	企業者材	内容	
	企業者材	内容	
	企業者材	内容	
【後半】 体験したことを、 振り返り、ルールで 考える。振り返り、ルールで 考える。振り返り、ルールで 考える。	企業者材	内容	
	企業者材	内容	
	企業者材	内容	
	企業者材	内容	
	企業者材	内容	
	企業者材	内容	
	企業者材	内容	
	企業者材	内容	
	企業者材	内容	
	企業者材	内容	

出所：一般社団法人Future Skills Project 研究会ホームページから抜粋

4

弘前大学（人文学部）H28年度より（人文社会科学部）			詳細
③カリキュラムの内容			
③ー 1. 現時点における具体的な開発状況			
○ベンチャービジネス論：じよばり起業家10人による講演、講演内容を踏まえたグループワークの実施により起業家マインドの向上を図る授業を開発した。結果、起業を目指す学生の割合が講義当初から5.4%程度増加した。			
○青森観光概論：JRR東日本取締役、青森県観光国際戦略局長、青森県内の地域おこし実践者による講義やグループワーク、函館市でのフィールドワークなど、津軽海峡交流圏形成を視野に入れた専門的・実践的な授業を開発した。授業は学生にとってはやや専門的であったため、次年度「観光基礎概論」などの基礎科目を新設し、本講義を応用科目として位置づけた。			
○ビジネスシミュレーション実習：地域企業と連携した実習を展開しプログラムの実施内容については開発はできたが、教育方法などについては、不十分などところもあるため、実施方法などについて平成28年度に改善することとした（2ページ参照）。			
○上記を踏まえ、次年度実施する観光産業に関わる履修モデルを開発するに至った（次ページにカリキュラム案を提示）			
③ー 2. カリキュラムの専門性・実践性・先駆性			
○多くの観光関係の実務者を講師として配置し、基礎科目（「観光基礎概論」など）、応用科目（「青森の観光と地域振興」など）、実践科目（ビジネス戦略実習など）などを受講することにより、段階的に専門性を高めるプログラムとなっている。			
○演習、実習を通して作られる学生のツアー企画などは、実際にモニターツアーなどを実施し、自ら企画の実現可能性を検証し、最終的には地域の旅行会社で販売できるレベルをめざすものとなっている。			
○学生の成長だけでなく、地域企業の成長も視野に入れたプログラムである点で先駆的である。すなわち、学生のアイデアは地域企業に異なった視点を取り入れる機会となり、これまでの固定概念を払拭し、新しい成長のチャンスに結びついている。			
○縮小する青森県経済の活性化を目的に「起業×観光産業×食産業」という多角的な視点から解決策を見いだすものである。			
③ー 3. カリキュラムの普及・波及効果			
○大学の授業に留まらず、一般向けに開放できるプログラムとして履修証明プログラムの構築を行い、地域における普及をめざす。			
○弘前大学研究推進・イノベーション機構が進める起業家育成事業と共同でプログラムを構築し、大学として起業家育成に取り組む体制を作るとともに、弘前大学食料科学研究所と連携し、カリキュラムの普及を図る。			
○弘前大学が設置した「むつサテライトキャンパス」（むつ市）でプログラムを実施することにより、全県的な波及効果をめざす。			

5

弘前大学（人文学部）H28年度より（人文社会科学部）

詳細

平成27年度に開発したじょっぱり起業家育成プログラム(履修モデル)

- ・観光分野に焦点を当てたプログラムの開発を行った。
- ・本事業で関わるカリキュラム開発は赤字部分である。このうち事業計画演習やビジネス戦略実習については、平成28年度において引き続き開発を行う予定である。

	1年生	2年生	3年生	備考
観光系起業家人材育成に関わる専門科目	ベンチャービジネス論 (80時間)	サービス経営論 (80時間) 観光基礎概論 (80時間) 資源の観光と地域活性化 (JTB 東日本寄附講座) (80時間)		1年生科目は必修 2年生科目は3科目中2科目選択 計 90時間
観光系起業家人材育成に関わる実践科目	地域学ゼミナール (教養科目)	事業計画演習ⅠⅡ (60時間)	ビジネス戦略実習ⅠⅡ (60時間) インターンシップ AEX	実習科目もしくはインターンシップを選択 計 80～60時間
関連科目 (学部専門科目)	経営戦略論 簿記システムⅠ	マーケティング論ⅠⅡ 地域データ分析ⅠⅡ 簿記システムⅡ 原価計算 管理会計	グローバル経営Ⅱ (サービス産業のグローバル化)	

6

弘前大学（人文学部）H28年度より（人文社会科学部）

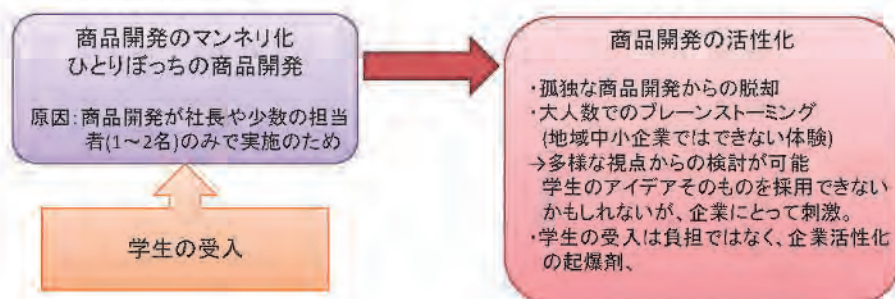
詳細

学生の成長と地域企業の成長を目指すプログラム(プログラムの効果)

- ・ビジネス戦略実習は、学生の成長だけを目指すものではなく、企業の成長もめざしたものである。
- ・学生が地域企業に関わることで、学生が育つだけでなく、地域企業も変わっていく。
- ・地域企業が変わることにより、地方のサービス産業の底上げにつながっていく。

学生を受け入れる前

学生を受け入れ後



7

④今後の方向性

平成27年度計画(学部プログラム)

- ①平成28年度向けサービス起業家育成プログラムの開発(観光産業系プログラム)
- ②実践系プログラムの試行
- ③海外インターンシッププログラム調査

平成28年度計画(学部プログラム)

- ①平成29年度向けサービス起業家育成プログラムの開発(食産業系プログラム、社会人向け教材開発)
- ②食産業系実践プログラムの開発
- ③観光産業系にかかわるインターンシッププログラム開発

平成29年度計画(社会人向けプログラム)

- ①履修証明プログラム用コンテンツ開発および実施体制の確立
- ②開発したプログラムの実施・検証・改善および自走のための体制確立

○カリキュラムの方向性を検討した結果、「観光産業」「食産業」「起業家」という分野で絞り込んで進めることとした(右図)。

○今年度は、観光に関わるカリキュラムを作成することができ、平成28年度から実施する。今後、これに食産業のカリキュラムをどのように組み合わせていくかを検討する予定である。

○「じよっぱり起業家」の精神を青森県の全県的に広めるため、次年度は下北地方の中核都市「むつ市」も含めた活動に取り組む予定である。「むつ市」を加えることにより、本学のある津軽地方のみならず、道南地方を含めた広域青函圏での起業家育成を目指す。本年度より本学では「むつサテライトキャンパス」を設置し、むつ市役所を含めた下北地方との連携強化に努めている。また、北海道新幹線も開通することから、津軽海峡交流圏形成を視野に入れ、「食」「観光」分野で活躍する「じよっぱり起業家」の育成に取り組んでいく。

○学部学生の育成だけでなく、「食」「観光」分野で起業をめざす社会人を対象とした履修証明プログラムの設置を目指す。また社会人が受講しやすい環境作りの一環として社会人向け教材づくり、e-learning実施体制の検討などを進める。

○観光に関する知識を学ぶカリキュラムの充実を図れたが、実践力を高めるプログラムは開発途中である。今後は、特に、インバウンドに対応できる人材育成のための海外インターンプログラムの検討を行う。



8

⑤自由記載（任意）

○キックオフフォーラムによる地域におけるサービス産業生産性向上にむけた取組を訴える

日時：平成27年11月2日(月)

テーマ：「地域企業と連携した地方大学におけるサービス経営人材の育成」

基調講演者の田嶋雅美氏（(株)フランチャイズアドバンテージ 代表取締役）から①津軽地域のサービス産業が盛れており、改善の余地が多く残されていること、②この事業を弘前大学人文学部が行うことにより、文化や歴史的な要素を取り込むことができ、魅力的なプログラムができる可能性があること、③学生を受け入れることは、企業にとってもプラスの面が多いこと、などの話があった。

その後のパネルディスカッションでは、パネリストから活動内容についての発表に加え、①青森におけるサービス経営人材に必要なこと、②学生と一緒に活動したなかでよかったことや課題、などについて発言をもらい、青森におけるサービス経営人材育成の方向性についてディスカッションを行った。



9

経済産業省 産学連携サービス経営人材育成事業
めざせ！じょっぱり起業家
青森の魅力を高める中核人材育成事業
平成 27 年度 事業成果報告書

平成 28 年 2 月

発行

弘前大学人文学部（グローバル経営研究室）

〒036-8560 弘前市文京町 1 番地
電話・ファックス 0172-39-3295（グローバル経営研究室直通）
メール：sjinzai@hirosaki-u.ac.jp

